

# 組NEWS合

Faculty and Staff Union of Kanazawa University  
発行：金沢大学教職員組合執行委員会  
住所：金沢市角間町 角間内線2105  
直通電話(076)262-6009 (FAX同じ)  
E-mail kanazawa@ku-union.org  
ホームページ http://www.ku-union.org/

2008年 7月23日

通巻1087号

## この号の内容

中村新学長と懇談会を開催	1 P
2008年度組合役員選挙の公示	1 P
全大教「教研集会」のご案内	2 P
ふれあいコンサートのご案内	4 P
歓迎会「あらためて金大教職員の自覚が」	4 P

## 中村新学長と「懇談会」を開催

新学長のもとで三学域体制での新たな金沢大学がスタートして早4ヶ月。組合として、学長就任当初から懇談を申し入れていましたが、7月15日に実現しました。大学からは中村学長、高尾理事、中山総務部長はじめ8名、組合は、本会執行委員を中心に11名が参加しました。

懇談会の中で、いくつか印象的だったことをご報告いたします。

第一に、毎年厳しさを増す大学財政の問題です。組合としては、大学内でパイの取り合いをしても仕方なく、学長が様々な場で県や市町などの地方自治体などの協力も得ながら、文科省や国などに異議を唱えていくことが必要であることを訴えてきました。

それに対し、学長は、国大協や文科省も同様に主張し、学長自身もいろいろな場で訴えているとのことでした。これについては、大学も組合も同じ方向を向いて協力できる点であると思えます。

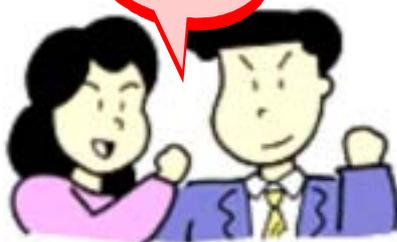
第二に、1時間の懇談の中で学長が何度も使用したことは「ボトムアップ」についてです。

学長は、懇談の中で各教員や現場の意見を重んじる「ボトムアップ」という用語を何度も使いました。これは、実際に教育研究をしている現場の意見を重視するという一方で、それぞれは歓迎すべきことだと思います。

ただし、現場の意見をどのように大学執行部に伝えるのかという点で、4月からの新しい大学の体制はシステム上きわめて下からの意見が伝わりにくいものになっています。その意味でも、組合の意義は大きく、現場で起きている様々な声を大学当局に伝え、改善を要求していく組合の役割が大きいと感じました。

第三に、外国人教員の問題についての学長の発言です。ここでも学長はボトムアップという

みんなの声  
もっと大きくし  
大学に反映へ



### 2008年度組合役員選挙の公示について

2008年7月23日

金沢大学教職員組合

選挙管理委員長 猪熊 孝夫

金沢大学教職員組合規約第25条、第28、第33条  
「選挙および一般投票管理規則」にもとづく2008年度  
執行部役員・監査委員選出の選挙を下記の通り実施します。  
記

1. 選出する役員  
執行委員長1名、副委員長1名、書記長1名、書記次長1名、  
会計委員1名、執行委員若干名、監査委員3名
2. 立候補及び推薦期間  
7月23日(水)～7月29日(火)午後5時まで
3. 投票日  
自8月6日(水)9時～8月12日(火)午後5時
4. 投票場所  
各分会の選挙監理委員が指定する場所
5. 開票日  
8月12日(火)午後5時半
6. 開票所  
組合本部会議室

言葉を使って話されました。要するに系や学類が考えるべきことであるということでした。

「現在任期のついているポストについて、任期を外すという可能性はあるか」という質問に対しては、懇談の場なので明確な回答は避けましたが、系や学類の意見を重視するという発言があったことは、非常に重要であると考えます。

組合としては、学長と自由に意見交換ができる懇談の場は、健全な労使関係を築いている上でも必要なことだと考えています。今後、年に数回はこのような懇談会を開催し、ボトムアップで上がってくる意見に耳を傾けていただく機会を作っていきたいと思っています。

# 全大教第20回「教職員研究集会」のご案内

## 教研集会メインテーマ

# 第2期中期目標に向け、 切り拓こう大学・高等教育の未来を



日時 9月13日(土)午後1時開会～15日(月・休)午後1時閉会

会場 電気通信大学(東京都調布市)

### 今回の教研集会の主旨

国立大学法人化から4年、大学をめぐる情勢は益々混迷の度合いを深めています。運営費交付金は配分され、使用されているのでしょうか。また、国立大学法人は、本当にこの国の将来を担う若者たちに責任を負えるのでしょうか。訴訟まで発展している学長の選任方法教職員の労働条件・環境、研究と教育のあり方に至るまで、制度の枠組みを離れては考えられません。

政府の教育再生懇談会は、「政府の教育費に対する公的支出CDP比3.5%を5%にすべき」との提言をまとめ、文科省は5%目標を盛り込んだ「教育振興基本計画」原案を閣議決定とするよう財務省に強く要求しました。しかし、7月1日の福田内閣の閣議決定では、具体的な数値目標は盛り込まれませんでした。強い抵抗を示した財務省や総務省に強い憤りを覚えます。

それでも、初めて「OECD諸国・・・の状況を参考の一つとしつつ、必要な予算について財源を措置し、教育投資を確保していくことが必要である。」と記述するなど、これまでの運動が一定反映され、今後の運動の足掛かりにしていく必要があります。

財務省は「国立大学授業料を私学並みにすれば約2700億円の増収効果」との試算を示し、「教員費の削減」で約2500億円の支出減を見込む等で、運営費交付金を約6700億円まで圧縮できるとしています。

私達は「あるべき国立大学像」を模索しながら、国立大学の充実をはかるため様々な知恵を結集していかなければなりません。このような状況のもと開かれる「全大教第20回教職員研究集会」の課題は次の4つです。

第1に、「過半数を組織する組合づくり」を始め全大教と各単組の運動について討議します。

第2に、大学で現在起きている問題についての交流です。研究教育の現場でおきている諸問

### 具体的な日程

9月13日(土)開会集会(午後1時～5時30分)

基調報告/ 記念講演

「大学法人の現状・課題・展望」金子元久氏  
(東京大学教育総合センター教授、  
専門、高等教育・教育の国際比較等)

特別講演

「大学におけるメンタルヘルス」影山任佐氏  
(東京工業大学保健管理センター教授、  
国立大学法人保健管理施設協議会メンタルヘルス委員長)

14日(日)A分科会(午前9時30分～午後3時30分)

B分科会(午後3時45分～午後5時30分)

15日(月)B分科会(午前9時30分～)/閉会午後1時

題、第2期中期目標・中期計画に向けてどのような目標・計画が立てられようとしているのか、今後の国立大学のあり方および自治・自律的機能などについて討議します。

教職員の権利擁護、労働環境、評価と査定昇給問題などについて議論を深めます。

第3に、教員養成系大学の諸問題、教員免許更新制への対応、教職大学院問題、教育学部再編等について交流し打開の方途を探ります。また、危機の時代にあっても取り組まれている、各大学での創造的な教育、研究活動を報告し合おうではありませんか。

第4に、女性教職員の労働環境整備、公立大学や大学共同利用研究機関などのテーマ別交流、および図書館職員・事務職員・技術職員、附属学校教員、非常勤職員など、職種別等の交流をはかり、それぞれの職域で抱えている諸問題について交流・討議します。

一人でも多くの組合員の皆さんが、  
9月、電気通信大学に集われんことを!!!

参加ご希望の方は、組合事務所まで、  
電話又はメールでご連絡下さい。



## 分科会のテーマと議論の柱

	<b>A 分科会</b> - 9月14日(日) 9:30~15:30
A 1	大学・高等教育機関における教育実践 環境問題や町づくりで地域住民と共につくり上げる授業や教員が調査分析する過程を再現した授業等、個々の教室の中に隠れて見えなかった教育実践の蓄積が明らかになっています。しかしまだ、多くの実践が全国各地で日々展開されているはずですが、今こんな取組を試みている、ようやく手をつけてみた、そんな事例をぜひ持ち寄って交流・議論しませんか。
A 2	教職員の労働条件・環境問題 法人化4年、私達の労働環境は改善されているのでしょうか。毎年の効率化係数、附属病院の経営改善係数、加えて人件費5%削減などで、人員削減・サービス残業が横行、約40の大学等での労基署の不払い摘発と追加支給がおこっています。非常勤職員の待遇、教員の任期制問題、深刻なメンタルヘルス問題等、依然残されたままです。各単組の先進的取り組みを通して交流を行います。
A 3	評価と査定昇給 各大学において、一斉に教職員個人評価導入と結果をボーナスや昇級システムに反映させる動きが高まっています。この1月の昇給に反映、6月のボーナス査定に導入した大学も出ています。多様な職種と職務があり、人員削減のもと多くの教職員の協業で成り立っている大学という職場に全くふさわしくないといえます。大学本来の役割の教育・研究・医療をもあやうくするものです。分科会では進行している評価と査定昇給システムの問題点、どう対応するか、具体的、実践的な交流を進めましょう。
A 4	大学・高等教育問題 大規模大学と地方大学の格差も深刻なものとなっています。今年2008年には法人化後4年間の暫定評価が実施され、第2期中期目標の運営費交付金に反映されることとなります。大学間の格差に対抗し、将来を担う若者へ教育をどのように充実させていくか。本分科会では、大学評価問題、地方大学の危機の実態、教員アンケートの中間集約報告を中心に交流と議論を深めます。現場での苦闘に基づいた議論を展開し、新たな行動へと結びつけていきましょう。
A 5	教員養成系大学・学部問題 教員免許更新制のトライアル実施が強制的に開始される一方、教職大学院では各地で定員割れを起こし、早くも存立に「?!」がつけられています。文科省の教員養成施策はことごとくトンチンカン、教育現場に混乱と負担強い迷惑行政。一方、教育学部再編統合は、またぞろ復活の気配です。困難を極める教育学部の現状を交流し、打開の方途を探ります。
	<b>B 分科会</b> - 9月14日(日)15:45~17:30、9月15日(月)9:30~11:45
B 1	過半数を目指す組織づくりと組合活動の改善 教職員の労働条件改善・地位向上と現在の大学・高等教育の危機打開のためには学内外で大きな影響力を行使しうる組合づくりが求められています。大幅拡大を進めた単組の経験、拡大を困難にしている要因分析、活動の改善を含め「過半数組合づくり」をめざし交流を行います。チェックオフ協定締結の重要性と具体的取り組みについても交流します。
B 2	大学の自治・自律的機能 以下のいくつかの問題を交流します。第1に、各大学の第1期中期目標の暫定評価と次期中期目標・中期計画の作成の現状と課題。第2に、各大学で進む研究と教育組織の分離、人件費のポイント制管理、大学間の共同学部設置や大学の再編・統合構想、職員組織の再編等の現状と組合の取り組み。第3に、学長選考はしめ学内自治めぐる現状と課題。第4に、運営費交付金4年連続減額による諸問題、財政配分の透明性とルール化、そして高等教育増額に向けた社会的応援づくりの取り組み等。
B 3	男女共同参画 「男女共同参画社会」の実現は、平成11年に「男女共同参画社会基本法」が制定されて以来、21世紀の日本の最重要課題の一つと位置付けられていますが、逆風も大きくなっています。男女ともに働きやすい職場環境を作るためになお一層の努力が求められています。明日への活力を生み出す場として多くの「男女」の皆さんの参加を訴えます。
B 4	事務職員 全大教として実施した事務職員アンケート結果と、書き込まれた様々な意見をもとに、大学の意思決定への参画、人事異動と昇任のあり方、職員評価制度のありかた、長時間労働と不払い残業の実態、メンタル面を含む健康問題、非正規職員の増加と事務組織のあり方等について検討します。特に、若い事務職員の人たちの意識や関心を探りながら、組合員拡大の進め方についても検討します。また「法人化のもとで大学事務職員に求められる能力とは」と題して事務経験者を講師に、小学習会を企画します。
B 5	技術職員 新たに大学教職員に課せられた地域貢献に関して、先進的な2、3の事例を基にして、技術職員・組織としての関わり方、とりわけ地位向上に結び付ける方策に関して議論します。
B 6	図書館職員 組合員の拡大、法人化後の図書館組織とその位置づけの変容、図書館職員の専門性維持と後継者育成等々をはじめ、大学・高専図書館をめぐる重要な諸課題について、報告をもとに交流します。また、図書館職員部活動方針についても検討します。
B 7	公立大学 公立大学の法人化が76中46大学と急速に進行しています。各大学の就業規則、学内規定、労使協定・労働協約締結等、労働条件と再編・統合等教育研究環境をめぐる取り組みについて交流を深めます。
B 8	大学共同利用研究機構 各大学共同利用研究機構の評価、管理運営、財政、労働条件等に関する現状と課題について交流します。
B 9	附属学校 <附属部の全体会> 附属学校の発展の方向性について考え合います。国家のための「教育」をめざす改悪教育基本法の具体化が始まり職場の矛盾は大きくなる一方です。日々の実践や悩みをありのまま出し合い、率直に論じ合って、進むべき方向を見つけましょう。 <2分散会を開きます> 「学校づくり・教育実践」= 免許更新制度 「主幹教諭」配置と予算配分問題 外国語活動をどうするか 特別なニーズ教育と附属学校の在り方、などについて交流・討議します。// 「労働条件・組合づくり」= 地域手当問題 出産・子育ての支援、産前8週間へのとりくみ 公立学校との格差縮減と人事交流 組織拡大、などについて意見交換します。
B 10	非常勤職員 本年4月施行の改正「パートタイム労働法」を活用した各単組のとりくみ状況、また、正規職員化や短期間雇い入れ職員の雇用上限撤廃・延長、賃金・休暇制度の改善など各大学等での労働条件改善の進展状況と組合加入について交流をはかります。分科会運営では、フルタイム職員とパートタイム職員に分かれて議論する時間帯も設定します。

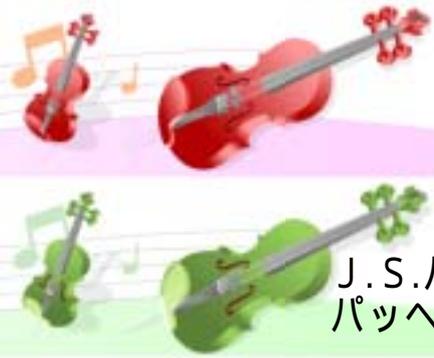
# ふれあひコンサート

とき 8月2日(土)  
11時00分～12時00分

ところ 医学部附属病院内  
西病棟一階 合同カンファレンス

## 弦楽四重奏

フルート : 赤尾 明紀  
ヴァイオリン : 藤原 朋代  
チェロ : 細川 文  
ハープ : 上田 智子



## 演奏曲

J.S.バッハ/3つのメヌエット  
パッヘルベル/カノン 他

どなたでもお気軽に

## 歓迎会に参加して

### あらためて金大教職員の一員の思いが

今年4月から助教として働いています。

6月13日の金沢21世紀美術館での歓迎会はとても和やかな雰囲気の中開催され、お料理も美味しく、初めての組合の行事に少し緊張気味だった私もとても楽しい時間を過ごすことができました。

私の所属する医薬保健研究域保健学系は角間キャンパスと離れた鶴間キャンパスにあり、私自身が角間キャンパスへ行く機会もそれほど多くないため、普段、他の研究域の先生方とお話する機会がほとんどありません。

今回の歓迎会では研究域を超えて様々な分野の先生方とお話することができ、興味深いお話をたくさん聴くことができました。(特に同じテーブルになった教育学系の村井先生はじめ各先生方、楽しいお話をありがとうございました。)

また、普段自分の所属の中だけにいます



と全体としての金沢大学を意識することがあまりないのが正直なところでしたが、今回の歓迎会に参加したことで普段どこか薄らいで

しまいがちな、『金沢大学の教職員の一員であるという認識』を改めて持つことができたように思います。

2時間ほどの短い時間でしたが、自分自身の視野も広がりとても有意義な時間となりました。またこのような組合の行事等に参加できたらと思っています。

最後に歓迎会をお世話してくださった皆様、ありがとうございました。

( i )